



昨日（9月23日）は秋分の日でした。今週はまだ暑い日もありましたが、日没も早まり、来週は10月、今年度第1学期も残りわずかとなりました。

本来であれば実りの秋として、様々な行事や大会が実施される時期ですが、2年続けてのコロナ禍の秋、緊急事態宣言は今月末に解除の方向で検討されるようですが、その先も教育活動には様々な制約が残ることが予想されます。

さて、先週お伝えしたとおり、県・市の新人体育大会に加え、市学校音楽祭の中止が決定しております。また、校内行事についても、群竹祭は期日を変更の上、規模を縮小して開催、修学旅行は、11月に再延期しての実施を予定しております。

昨年度は生徒が心待ちにしていた行事の多くが中止となりました。そこで今年度は、工夫して何とか実施したいと考えておりますが、何より大切なことは、安全に実施することです。状況によっては臨機応変な対応も必要と考えておりますのでよろしくお願いいたします。

◇研究授業が行われました

9月21日(火)、新規採用教員配置校訪問として、県・市教育委員会から担当の方が来校され、今年度新規採用の〇〇〇〇教諭が1年4組で社会科の研究授業を行いました。

今回の学習課題は聖徳太子の目指した政治でした。生徒たちは、聖徳太子が行った「冠位十二階」「十七条の憲法」「遣隋使」それぞれの目的についてグループで話し合いながら考察し、目指した政治の内容について理解を深めました。

初任者に限らず確かな学びを実現するための授業研究は大切なことです。こうした研修の機会を重ね、本校生徒の学力向上につなげたいと考えます。



◇感染症対策として消耗品の寄贈がありました

本校の学校 Web ページでは紹介済ですが、7月末に田沼南部地区民生委員児童委員協議会の皆様から、新型コロナウイルス感染症対策として、アルコール除菌シート、使い捨て手袋等の消耗品を寄贈していただきました。

また、先日は篤志家の方から佐野市に不織布マスクの寄贈があり、佐野市教育委員会を通じて、本



7月末に寄贈いただいた消耗品

校には一箱 50 枚入りのもの 50 箱、計 2,500 枚をいただきました。

感染症対策のより一層の徹底を図らなければならない現在、これら品々は欠かすことのできない消耗品です。地域の皆様の御厚意に深く感謝申し上げます。

◇コロナ禍にあって利他や共生の思いを大切に子どもを育てるために

感染症対策を徹底しようとする考え方は自分中心になりがちですが、苦しい状況下であるからこそ、利他の思いをもって力強く生きようとする人がいます。このことを紹介した記事がありましたので紹介します。

no rain , no rainbow ～ コロナ禍に学ぶ ～

全国一斉の休校から1年半、コロナ禍はなかなか収束の兆しを見せません。学校の教育活動も制限のある中で工夫をしながら進めています。皆さんの家庭でも感染という恐怖と戦いながら日々の生活を送っていらっしゃるかと思います。

コロナ禍の中ではありますが、その苦境の中にも学びがあることを子どもたちに伝えていく使命があります。医療従事者をはじめとして、多くの人が「for you (誰かのために)」という強い意志をもってその使命を果たそうとしています。

アイドルグループ NMB48 のメンバー山本彩加さんもその一人です。彼女の姉は看護師をしており、家族への感染を心配してホテル生活をしたり、帰宅した場合はシャワーに直行したりして、強い緊張感と誇りをもって患者の対応に当たっています。そんな姿を目の当たりにした彼女は「自分にも何かできることがある」と NMB48 を卒業し、姉と同じ看護の道へ進む決心をしました。

彼女は言います。「応援してくれるファンがいることや、活動する場所があるということ」を当然のように思っていたが、それは勘違いで本当は壊れやすいものの上にあった」と。自分を支えてくれる人たちの存在と感謝の気持ちを実感した瞬間だったのです。誰かのために自分の使命を全うしようとする姿は、スポットライトを浴びるアイドルの姿よりも、さらに美しい光を輝き放つ気高い姿といえます。

今はコロナ禍の真っ只中、土砂降りの雨が降っている苦しい時期です。そんな中で、山本さんのように気高い生き方をされている人がたくさんいます。「no rain , no rainbow」という言葉があります。雨が無ければ虹を見ることはできません。苦しい状況下だからこそ、見えてくるものがたくさんあります。学校では、感染症対策と同時にそうした「for you」の生き方を子どもたちと一緒に学んでいきたいと考えます。御家庭でも、コロナ禍の苦しさに対する不平や不満を口にするのではなく、気高い生き方である「虹」を見つけさせるとともに、大人である私たちが太陽になっていかなければなりません。

今だけでなく、コロナが去った後も「for you」の気高い生き方を目指し、「雨」の中にあっても「虹」を求める強い意志を、子どもたちにもってほしいと強く願っています。

(岐阜聖徳学園大学准教授 山中 貞二氏寄稿の記事から)